

令和7年度 第3回 T A I T O フューチャースクール検討委員会

開催日	令和7年9月18日(木) 午後4時00分から午後5時30分まで
場所	台東区役所 6階 教育委員会室
出席委員	高橋委員、土肥委員、小出委員、田中委員、渡邊委員、佐々木委員、山田委員、中島委員、仲田委員、宮脇委員、増嶋委員
欠席委員	垣野委員、小出委員(途中退席)
配布資料	① 資料1 TAITO フューチャースクール検討委員会_中間報告 ② 資料2 Microsoft 365 から Google Workspace への移行に関する教員向けアンケートの結果について ③ 資料3 モデル校報告_上野小学校 ④ 資料4 モデル校報告_駒形中学校

■議事概要

1. 開会

(1) 事務局報告

ア 中間報告案について

委員会設置の背景として、Society5.0 時代の到来と生成 AI の加速度的発展による社会変化が挙げられ、ICT を基盤的ツールとした個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指す。

検討課題として、情報活用能力育成カリキュラムの作成、生成 AI の利活用、次世代ネットワーク構築に向けた方向性の提示、リアルな学びを支えるデジタルの力の検証、区内学校への展開方法および支援策の構築の5項目を提示。

田中委員:教育課程の編成における台東区教育委員会の関わり方について質問

増嶋委員:研究開発学校の取り組みを参考に検討する可能性を示唆

小出委員:生成 AI ガイドラインの公開状況と子どもたちの実態について質問

増嶋委員:6月に第一版を発出し、教員の校務利用を推進していると回答

土肥委員:生成 AI を使える人材育成の重要性を指摘

渡邊委員:生徒の生成 AI 活用に関する倫理やルールの早期教育の必要性を提案

高橋委員長:生成 AI は高い志を持つ人間像に関連し、教育においては主体的な学びや多様性を重視する必要性を指摘

佐々木委員:カリキュラムの方向性や具体的な作成について質問

増嶋委員:春日井市の実践を参考に、各教科を統合したカリキュラム作成を目指し、成果を広めることを考えていると回答

高橋委員長:カリキュラムと教材がセットであることや、現場での柔軟な対応が必要と述べる。また教員自身の情報活用能力の向上の必要性を指摘

イ Google Workspace の利活用に関する教員アンケート

モデル校教員 30名(駒形中学校 16名、上野小学校 14名)を対象に実施したアンケート結果の報告。移行に関する全体的所感として、スムーズな移行や情報共有の利便性向上を評価する肯定的意見がある一

方、使いにくさや既存ファイルからの移行困難を指摘する否定的意見もあった。使い勝手と作業効率については、7割弱が「作業効率が向上した」と回答している。

個別アプリケーションの評価では、Google ドライブのファイル同時編集機能、Classroom の課題機能、カレンダーの予定管理機能、Gemini/NotebookLM の会議記録・資料まとめ機能が高く評価された。一方、課題として Microsoft オフィスファイルとの互換性問題、縦書き・ふりがな機能の不足、複数プラットフォーム併用による煩雑さを指摘された。

田中委員：教員のワークフロー変革の必要性を指摘

渡邊委員：使い慣れるまでの戸惑いはあるものの比較的簡単に使えるようになる点を強調

小出委員：教育委員会主導での統一方針の必要性に言及

土肥委員：Google Workspace 移行の意図と達成度の明確化を要望

増嶋委員：台東区での Google Workspace の普及が教師の異動や教材の活用を円滑にする一方、他自治体との併用や予算面の調整が課題であると言及

高橋委員長：Google と Microsoft の思想・仕事の仕方の根本的な違いを解説

高橋委員長：Google はディスプレイで見ることを前提に設計されており、紙への出力を前提とした Microsoft とは異なる利点があることを説明

Google Workspace が単なるアプリの集合体ではなく、統合された「働く環境」として提供されている点を強調

(2) モデル校報告

ア 台東区における Google Workspace 導入と教育活用事例報告

(ア) 台東区立上野小学校

Google Workspace 導入 1 年間の浸透過程の報告。最初に Google ドライブへの主要ファイル移行から始まり、次にチャットによる情報共有が教員の参画意識向上に大きく貢献したことを強調。その後、Google カレンダーによる行事管理、NotebookLM による情報要約、Gemini を活用した通知表所見作成へと活用が広がっていった経緯を説明。校務における効果として、教員の参画意識向上、働き方改革の推進、主体的・対話的で深い学びの実装につながる可能性が挙げられた。

(イ) 台東区立駒形中学校

Google カレンダーを活用した校務改善の事例の報告。行事実施要項の PDF 添付や朝の打ち合わせ時間の短縮(約 4 分)、変更事項の視覚的把握、伝え忘れの防止などの効果を示す。また、生成 AI の教育活用事例として、写真からイラスト生成、プロンプトエンジニアリングの実践、教材作成支援、英語テスト説明の要約などを紹介。今後の活用予定として、保護者向け案内作成、所見の原案作成、アンケート分析、校外学習・修学旅行の経路計画などが挙げられた。

イ その他(高橋委員長による生成 AI についての講話)

NotebookLM のデモンストレーションを行い、報告書を中学生向けのストーリーに変換する機能や写真編集機能を実演。また、中学生の生成 AI 活用事例として、授業で休んだ内容の補完、数学の問題解決支援、教科書の概念理解の深化、社会科レポート作成での多角的視点の獲得などを紹介。

生成 AI の教育的位置づけについて、自己成長のためのツール、電卓のような道具、教科書の補助資料(口

コミ情報)、概念的理解を深めるための対話ツールとしての活用方法を説明。生成 AI 活用の指導原則として、自分の成長のために使うという意識付け、概念的理解を目指す姿勢、教科書等との併用による情報の確認、興味関心に合わせた多角的な探究の重要性を強調。

生成 AI を活用した学習では、子どもたちが自ら興味を持って多角的に質問を繰り返し、教科書と照らし合わせながら概念的理解を深めていく様子を紹介し、このような学習が教室内の議論を活性化させる効果があることを指摘。

次回開催:12月4日(木)午後4時

3.閉会